2000年(平成12年) 荒川流域 一斉水質調査 マップ

入間川水系は裏面
※市野川は裏面にあります。

2000年(平成12年)6月11日(日)午前10時開始

制作・発行：荒川流域ネットワーク
事務局　〒355-0017　埼玉県東松山市松葉町３−２−５
Tel. 0493-22-4162　Fax. 0493-22-4460
デザイン・版下作成：プラスワン印刷企画
2000S・10・12H

COD（化学的酸素消費量）

水中の酸化されやすい物質（主として有機物）の酸化により消費される酸素量をあらわす。CODの数値は、水中の有機物の量の目安になり、この数値が大きいほど水の汚れがひどいことになる。河川の有機物は流下にともない空気にさらされ酸化分解を受けるので、CODは途中からの汚水の流入がないと一般に減少する。河川汚濁の程度を調べるポイントになる調査といえる。

※ヤマメ、イワナは１ppm、サケ・アユは３ppm以下で、コイ・フナは５ppmでもすめると言われる。

PH（水素イオン濃度）

水の酸性・中性・アルカリ性を示す。プランクトンの活動が激しい湖沼や、水草の多いところでは、光合成により水中の二酸化炭素が植物にとりこまれ、PHは上昇する。夏の天気の良い日中には９近くまで上昇することがある。PH７が中性で、それより大きくなるとアルカリ性、小さくなると酸性「環境標準」で水道１〜３級は、PH6.5以上8.5以下となっている。

NH4 - N（アンモニア態窒素）

タンパク質など有機物の分解や、亜硫酸イオン（NH2−）の還元によりできる。したがって有機物が多く、溶存酸素の少ない汚れた水に多く存在する。し尿や家庭雑排水の汚れをみるのに適している。

NO2 - N（亜硝酸態窒素）

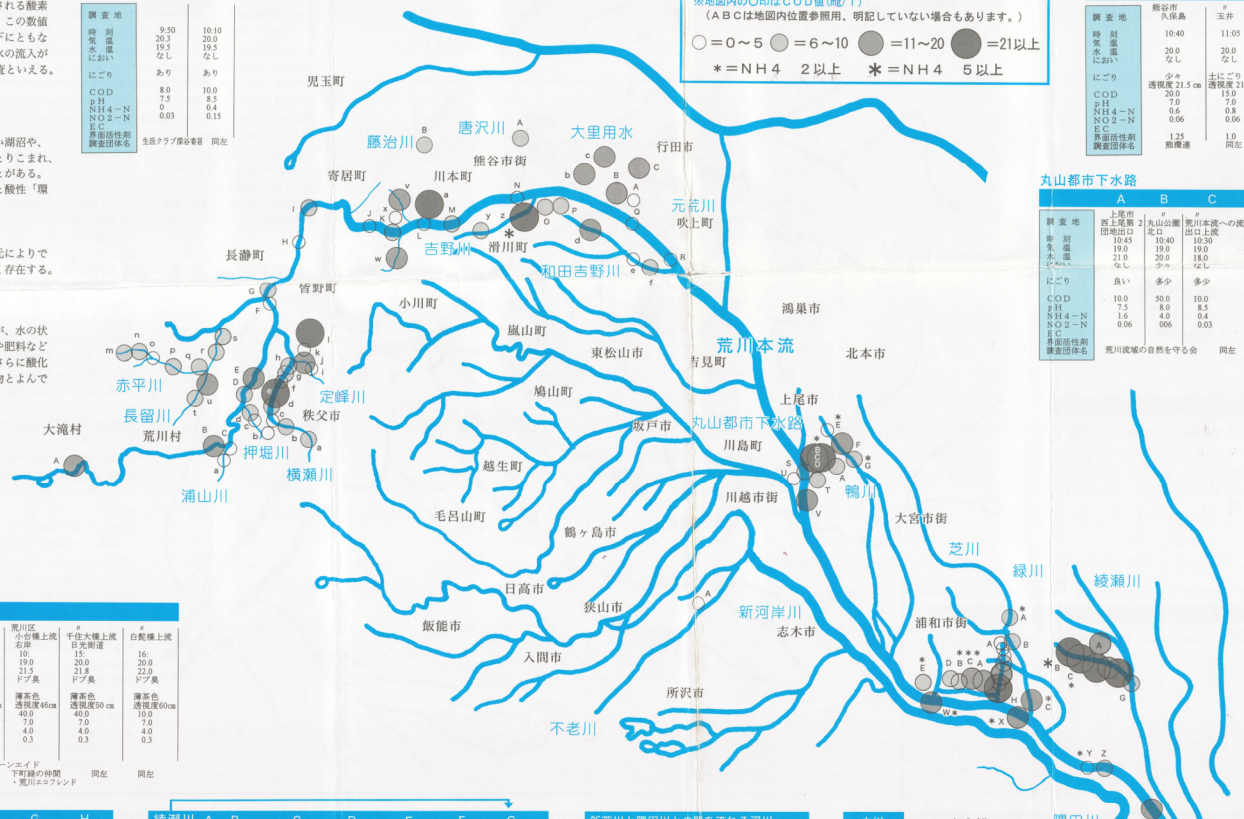
有機物の多い汚れた水に含まれる。水の汚れの指標として有効だが、水の状態（溶存酸素濃度）により変化しやすい。し尿や生活排水、農薬や肥料などに含まれる窒素は、水の中で分解されアンモニア態窒素になり、さらに酸化されて亜硝酸窒素→硝酸態窒素になる。これらを称して窒素化合物とよんでいる。

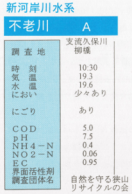
EC（導電率）

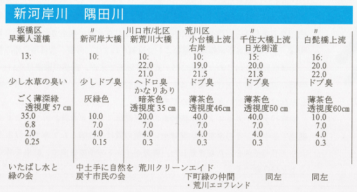
単位はミリジーメンス(ms/cm)。水中の無機イオンの総量を示す。無機イオンの多い水は汚れた水とされる。電気を伝える物質が溶け込んでいる様子をあらわす。海水は高く、純水はゼロ。

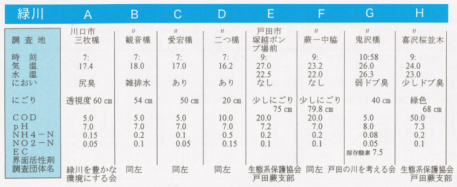
界面活性剤（陰イオン）

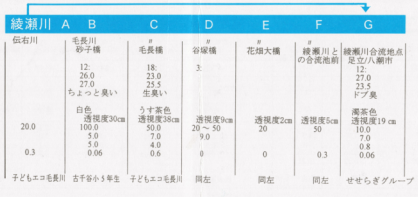
水道法の基準値では、0.2ppm（陰イオン系）。近年、洗剤メーカーは非イオン系のコンパクト洗剤に切り換えてきているが（市場の約４割は非イオン系）、この試薬では測定できません。

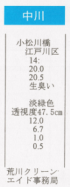


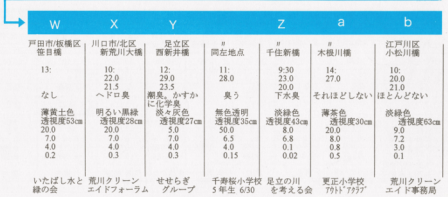


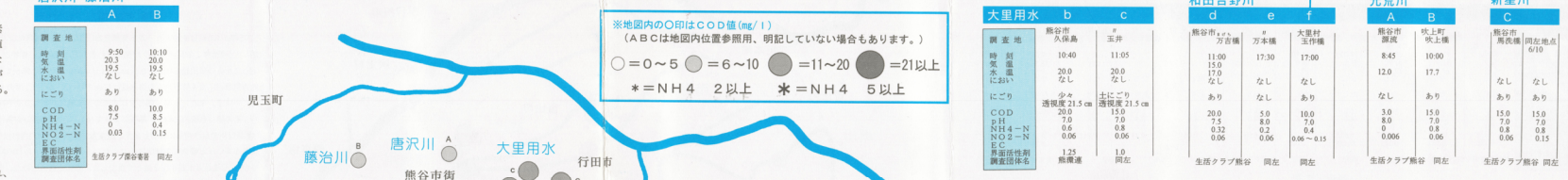












注：鴨川は桶川市役所西側を源流として、上尾市小泉の鴨川橋から河川となる。さらに、大宮、浦和と流れ荒川に注ぐ。浦和所沢街道の羽倉橋下流、荒川左岸に鴨川排水機場があり、志木・浦和街道の秋ケ瀬橋上流で支流の調節川と合流している。この河川も市野川と同じく、川の名前をあちこちで橋にしており、橋の名前だけでは、その場所を特定できない川である。

注：さくら川は、荒川左岸流域下水終末処理場の水が流れている。戸田市の西側を走っている。蕨蕨川は、戸田競艇場の水が流れて荒川に入っている。上戸田川は、戸田競艇場の北側から流れ、競艇場の東側で蕨蕨川に合流している。笹目川は、浦和方面から流れて来ており、最近、近自然型護岸の工事を浦和地区で進めている。緑川は、戸田市東側、川口・戸田の市境を南北に流れている。芝川は桶川市末広を源流とし、都市下水路として、桶川・上尾・大宮を流れ、ＪＲ宮原駅東側の見沼代用水と交差する少し上流で、岡川抜いとなり、大宮、浦和、川口を流れ荒川に注いでいる。その東側を綾瀬川、さらにその東側を中川（元荒川・古利根川）が流れており、この３川は、埼玉南東部の低地を流れる代表的川である。そして、その東側に、埼玉・千葉県境を走る江戸川がある。東武野田線で見ると、大宮公園駅東側で芝川が、岩槻駅西側で綾瀬川が、岩槻駅東側で元荒川が、春日部駅東側で古利根川が、それぞれ流れている。

注：子どもエコ毛長川の正式名称は「子どもエコクラブ毛長川大捜査線」